



「私たちの街ではこんなことやっています」

こども獅子舞い

梅雨の谷間か、七月九日の日曜日は好天に恵まれ夏まつりにふさわしい一日であった。

朝早くから獅子をかぶりはしゃぐ声、あっちの家こっちの家と順番に獅子頭・胴・尾をかぶる子と交代して元氣よく舞っていた。あの子に「君、疲れたか」と聞いたら「疲れたけど楽しい」汗をふきながら次の家へと飛んでいった。

一回りして、育成会会長宅で昼食。公会所で祈禱を行い、末永町一区、二区、清水町そして本郷町二区、一区の順に引継いで一日を過ごした。

夜になると神社の境内には子供たちの作った角行灯五十三個に灯がともり、色々な絵が浮きでて夏まつりの情緒が一層盛り上がった。



「海蔵の寺社」シリーズその⑥

今回は東阿倉川の田端山唯福寺（真宗大谷派、ご本尊・阿弥陀如来像、住職・田端哲哉師）をご紹介します。

文政元年（一四六六年）丙戌正月二十日に南勢の武士田端十郎政元が当地に来て出家し、空正と号して天台宗より真宗本願寺に転宗され、今日に至り平成八年は、創立五百三十年を迎えます。

その間、織田信長の焼き討ちや失火にありましたが、八世住職慶

圓師や十一世住職、敬山師が中興の祖となり再建しました。

さらに十三世住職、教正師による海蔵庵薬只窯は四日市万古の創始で、地域社会における殖産工業の発展に貢献されるところとなりました。

他方、教正師の孫が早逝された為に、明治二十二年役僧が実権を握り、当寺はついに破滅におこまれました。

しかし、明治四十三年、十六世住職はご門徒衆と共に再興をはた

唯福寺

しました。ところが昭和十九年、十七世住職の戦傷死により、再び十六世住職が十八世を継ぐことになりました。

このように当寺の歴史は、創造、維持、破壊を繰り返してきましたが、いつもご門徒衆に支えられて今日に至りました。現在は、十九世住職とご門徒衆が、親鸞聖人のみ教を日常生活のわが身の上で聞き開くべく聞法学習を重ねておられます。

足元から環境改善

地球的規模から環境の悪化防止と保全が最優先問題とされていますが、こうした大きな難しい問題に、地域に住む私たちはどう対応（参加、協力のための理解）したらいいのが戸惑いのある方も多いのではないのでしょうか。

身の周りを見渡して、私たちに今日からでもできる『環境保全』はたくさんあります。

例えば

- 川にごみを捨てない。
 - ごみは分別して出し、減量化にも心がける。
 - 資源のリサイクルをすすめる。
 - 省エネルギーに心がける。
 - 公共下水道が敷設されたら速やかに接続する。
 - 浄化槽の定期点検を決められたとおり行う。
 - 事業所からの排水にも十分気を付ける。
- 等々多くあります。そうした小さい積み重ねが『きれいな海蔵川→きれいな伊勢湾→きれいな世界の海』につながるのではないのでしょうか。

（海蔵地区市民センター）

編集後記

前号に引き続き「海蔵川」を特集してみました。

今回は、川の自然をテーマに、そこに生息する生きものから、水の汚染度合いなどを、実際に川に入り地域の子供の目を通して、調べてみました。

現状は、この地区を流れる川は「やや汚い」と、ここに住む生物が教えてくれました。この季節、海蔵川の本当の素顔をみる事ができます。

（広報部員一同）